

「強迫性障害のエクスポージャー・反応防止 (EX/RP) 集中ワークショップ  
日本の国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の協力による

参加対象者 認知行動療法や不安症患者の治療経験がある日本の精神保健専門家。

日程 2024年3月13日から2024年6月12日までの毎週水曜日

時間 日本時間の午後9時から午後11時

費用： 1人1500米ドル。この費用には、ワークショップの費用と、ワークショップ前にEメールで送付されるスライド資料やアセスメント資料などのサポート資料が含まれます。

受講条件 このワークショップの修了証を取得するためには、参加者はビデオ会議の各時間帯に出席し、出席状況を確認するためにビデオ会議中の自分の映像を使用することが求められます。ただし、やむを得ない事情がある場合は、事前連絡の上、4時間までの欠席を認める。このような場合、参加者は予定されたワークショップ・セッションの前に、金吉晴博士 (kim@ncnp.go.jp) とサンディ・カバルディ博士 (sandraca@penmedicine.upenn.edu) にEメールで通知しなければなりません。やむを得ない欠席を事前に通知した方には、欠席したワークショップ・セッションの録画ビデオ (実際に使用された患者のビデオ例を除く) が提供されます。

ワークショップの場所 Zoom (ワークショップ開催前に案内をお送りします。)

ワークショップの説明

ペンシルバニア大学不安障害治療研究センターは、強迫性障害(OCD)に対するエクスポージャー反応妨害(EX/RP)療法の28時間の集中ワークショップを開催します。このワークショップは、参加者がEX/RPを実施するための準備となります。

このワークショップの後、参加者は以下のことができるようになります：

- ・OCDの診断と精神病理学についての説明。
- ・経験的に支持されているOCDの心理療法的、精神薬理的治療法についての説明と、それらの治療法の有効性の比較。
- ・EX/RPの基礎となる理論と経験的な裏付けについての説明。
- ・OCDに対するEX/RPの心理教育的治療法の実施。
- ・学習を効果的に促進する様々な状況を含む現実エクスポージャーの階層を構築する。

- ・現実エクスポージャーの実施
- ・恐れている結果に対する想像的エクスポージャーの実施
- ・個人(例：発達上の問題、併存疾患)に合わせて、EX/RP のテクニックをいつ、どのよう  
に修正するかの説明。
- ・成人の治療における EX/RP の基本的な技法についての説明。
- ・模擬治療セッションの中での、想像エクスポージャーのロールプレイの実施
- ・OCD の症状を評価し、適切な治療計画を立てる

#### ウェビナー・ワークショップの必要条件

- ・守秘義務を守るために、自宅や職場での適切なプライベートな場所を確保してください。
- ・また、騒音や気が散ることのない場所にしてください。(小さなお子さんを持つ親御さんの場合は、適切な託児の手配がされていること)。
- ・EX/RP セラピストガイドと患者用ワークブックが必要です。(日本語訳原稿は国立精神・  
神経医療研究センター精神保健研究所から提供されます。)
  - ・強迫性障害のためのエクスポージャーと反応（儀式）防止：セラピストガイド  
(効果のある治療) 第2版
  - ・エクスポージャーと反応（儀式）防止療法による強迫性障害の治療：ワークブ  
ック (効果のある治療) 第2版
- ・ワークショップで提供された資料をコピーしたり、配布したりしないことに同意してくだ  
さい。
- ・ワークショップでは、本物の患者のビデオが使用されるため、いかなる形であれ、ワーク  
ショップの 音声やビデオを録画しないことを含め、守秘義務に関するすべての適用される  
規則を遵守することに同意しなければなりません。

#### 登録方法

参加登録は1週間前までにお願いします。

オンライン登録の際、ワークショップ名を聞かれますので「Japan Workshop」を選択して  
ください。

何らかの理由で申込を取り下げたい場合は、サンディ・カパルディ博士まで E メールにて  
ご連絡ください。申込締切日（ワークショップ開始1週間前）以降の参加費の返金はできま  
せんのでご注意ください。

#### 講師について

ペンシルバニア大学ペレルマン医学部不安治療研究センター（CTSA）臨床心理士。デンバ  
ー大学で心理学と生物学の学士号を、テンプル大学で臨床心理学の修士号と博士号を取得。

フィラデルフィア小児病院で臨床研修を修了。OCD、PTSD、社交不安症、パニック障害、特定恐怖症、全般性不安症の治療を専門とする。PTSD に対する長期エクスポージャー(PE)、OCD に対するエクスポージャーと反応(儀式)防止(EX/RP)の臨床家、コンサルタント、スーパーバイザーとして認定されている。さらに、極度の偏食(回避性・制限性食物摂取障害、ARFIDとも呼ばれる)、嘔吐恐怖症(嘔吐恐怖症)、窒息恐怖症に関する研究を行い、臨床治療を行っている。ボディー博士は、不安障害および関連障害のエビデンスに基づく治療法を広めるため、教育、執筆、監督、コンサルテーション活動に参加し、この分野で活躍している。

ペンシルバニア大学ペレルマン医学部不安治療研究センター(CTSA)臨床精神医学助教授。ニューヨーク州ハドソンバレーのVAで臨床研修後、2020年にフィラデルフィア整体医科大学で臨床心理学の修士号と博士号を取得。PTSD/トラウマ、PTSD/DBT病棟、OCD、特定恐怖症、社会不安障害などの不安障害外来を担当。臨床面では、PTSDに対する長期エクスポージャー(PE)、OCDに対するエクスポージャーと反応(儀式)防止(EX/RP)の認定を受けており、OCD、PTSD、不安障害やうつ病を併存する小児、青年、成人の治療に豊富な経験を持つ。さらに、チック障害、排泄障害(皮膚を摘む)、トリコチロマニア、身体醜形障害などにも広く取り組んでおり、感情調節障害を併存する青年や成人にも豊富な経験があります。ブリアー博士の研究テーマは、女性のPTSDとOCDの交差点、およびエビデンスに基づくエクスポージャー療法の地域社会への普及である。CTSAでは、PTSD、OCD、社交不安障害、パニック障害、特定恐怖症、全般性不安障害、排泄障害、トリコチロマニアの治療を専門としている。ブリアー博士は、特に多様な人々を対象とした、実証に基づいた不安治療の地域社会への普及に深い関心を寄せている。

リリー・ブラウン博士は、精神医学部心理学助教授であり、不安治療研究センター所長である。ドレクセル大学で心理学の理学士号を、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)で臨床心理学と学習行動心理学の博士号を取得。大学院では、不安・うつ病研究センターで、特に心的外傷後ストレス障害(PTSD)に焦点を当て、恐怖条件づけと絶滅における変化のメカニズムを研究した。ブラウン大学の心理社会研究部で博士前研究員としてのインターンシップを修了し、PTSD患者の自殺行動の割合に関する研究を行った。ブラウン博士の現在の研究は、不安障害やPTSD患者の自殺リスクを軽減するための治療法の開発と実施に焦点を当てている。不安障害に対する認知行動療法を専門とし、強迫性障害に対するエクスポージャー/反応防止法(EX/RP)を含む。

サンディ・カバルディ精神医学博士(Psy.D.)は、臨床精神医学助教授であり、不安障害治療研究センター(CTSA)の副所長、臨床部長、実施部長である。テンプル大学で心理学の修士号を取得後、MCPハーネマン大学で臨床心理学の修士号を取得。その後、理学修士号

を取得し、フィラデルフィア整体医科大学で臨床心理学の博士課程を修了。また、CTSA から PE セラピスト、コンサルタント、トレーナーとして、また OCD（強迫性障害）に対するエクスポージャーと反応防止（EX/RP）セラピスト、コンサルタントとして認定されています。カパルディ博士はまた、トリコチロマニア、排泄障害、社交不安、パニック障害、広場恐怖、特定の恐怖症、全般性不安、身体症状および関連障害に対する認知行動療法も専門としている。

エリザベス・ターク＝カラン博士は、CTSA のプラクティカムおよびインターンシップ・トレーニングのディレクターである。1993 年にペンシルバニア大学で学士号、ラトガース大学で修士号と博士号を取得。個人開業医として数年勤務した後、経験的に裏付けられた不安治療法の普及により深く関わるため、CTSA に復帰。ペンシルバニア大学、ペンシルバニア医科大学/EPPI、ピッツバーグ大学において、パニック障害、社会恐怖症、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害の研究において、評価者および治療者として勤務。臨床心理士の資格を持ち、小児から青年、成人まで、さまざまな患者層の臨床経験を持つ。ターク・カラン博士は、PTSD に対する長期エクスポージャー療法（PE）、強迫性障害に対するエクスポージャー・反応妨害療法（EX/RP）、社会不安、パニック障害、特定の恐怖症、全般性不安に対する認知行動療法を専門としている。

ジェレミー・タイラー精神医学博士（Psy.D.）は、臨床精神医学の助教授であり、不安治療研究センター（CTSA）のウェブ&デイ・プログラム・サービスのディレクターである。タイラー博士は 2016 年にフィラデルフィア整体医科大学で臨床心理学の博士号を取得。PTSD/トラウマクリニック、PTSD/薬物乱用クリニック、外来メンタルヘルスクリニック、脊髄損傷センターで臨床ローテーションを修了。タイラー博士の研究テーマは、OCD や PTSD を含む不安関連障害の治療に関与するトランス診断メカニズムの役割の理解であり、特に不安感受性、完璧主義、感情調節の役割に関心がある。臨床的には、タイラー博士は PTSD に対する長期エクスポージャー（PE）と OCD に対するエクスポージャーと反応（儀式）防止（EX/RP）の実施と指導の資格を持っている。さらに、社交不安症、パニック障害、特定の恐怖症、全般性不安症に対する認知行動療法も行っている。さらにタイラー博士は、これらの治療法の普及と実施に強い関心を持ち、これらの治療法の臨床教育、スーパービジョン、コンサルテーションに深く関わっている。

ペンシルバニア大学ペレルマン医学部不安治療研究センター（CTSA）助教授。タフツ大学で発達心理学を専攻し、学士号と修士号を取得。オランダ、アムステルダムの Vrije Universiteit で臨床心理学の博士号を取得。帰国後、ペンシルバニア大学心理学部で臨床専門課程を修了し、デラウェア州ニューアークのクリスティアナ・ケア病院で APA 認定の臨床実習を行った。ワイツ博士の研究は、気分障害と不安障害に対するエビデンスに基づく治

療の有効性を高めるために、個々の患者の特性を活用して治療の個別化を改善すること、およびうつ病と不安障害に対する治療の全体的な質と有効性を検討するメタ分析的研究に重点を置いている。ワイツ博士の臨床研修は、外来精神保健、地域行動保健、および病院での気分障害、不安障害、トラウマ関連障害の治療における認知行動療法（CBT）の実施に重点を置き、多職種からなるチームの健康心理士として、さまざまな場面や方法論に及んでいる。ワイツ博士は、周産期 OCD、出産関連 PTSD、不安障害や気分障害など、女性の健康や周産期に関連する問題の治療において、特別な専門知識を培ってきた。CTSA では、ワイツ博士は、OCD、PTSD、不安関連障害の治療において、エクスポージャーに基づく方法を中心とした認知行動療法を専門としている。